

■e-黒板ニュース（第5号）：「e-Learning WORLD 2004」開催中

本日（7月28日）から30日まで、東京ビッグサイトにて「e-Learning WORLD 2004」が開催されています。財団法人コンピュータ教育開発センター（CEC）も協賛しており、展示担当者として会場にきていますので現場より報告します。（関）

今号の目次：

- =====
1. 「e-Learning WORLD 2004」開催
 2. 官庁等の教育情報：「学校における情報教育の実態等に関する調査」Web公開
- =====

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。また、配信中止のご連絡もお願いします。

会員の皆様からの投稿もお待ちしています。現在募集中のテーマは、

- ・「電子情報ボードを活用した授業実践事例集」CD-ROMを利用した教員研修
- ・「電子情報ボードの教育的効果」について：ご意見・実践事例等
- ・企業からの「お得情報」：機器の貸出・特別価格制度・モニター募集等のお知らせです。

宛先はいずれも ekokuban@cec.or.jp です。

1. 「e-Learning WORLD 2004」開催

「e-Learning WORLD 2004」実行委員の平本健二氏によると、「英語教育」や「英語による海外からの遠隔授業」の分野におけるe-Learningが顕著だという説明でした。企業展示では、日立、内田洋行、ベネッセコーポレーションなど、多くのブースで電子情報ボードがごく普通にプレゼンテーションのツールとして活用されていました。パネルディスカッションでは、岡本敏雄先生のコーディネートで、「e-黒板研究会」委員の毛利靖先生、会員の榎本竜二先生、Eスクエア等で活躍された上水流信秀先生もパネリストとして実践事例をベースに熱弁をふるっておられました。このパネルディスカッションを中心に、現場から報告します。上水流先生からは、「子どもたちにとって一番重要なコンテンツは、板書（今日の黒板に書かれた文字）である。」という興味深いメッセージがありました。

○開催概要

会期：2004年7月28日〔水〕-30日〔金〕 3日間 10：00-17：00
 会場：東京ビッグサイト 東ホールおよび会議棟
 主催：「e-Learning WORLD 2004」実行委員会／日本工業新聞社／〔株〕シー・エヌ・ティ
 後援：経済産業省、文部科学省、総務省、厚生労働省、全国都道府県教育委員会連合会、日本商工会議所、〔社〕日本経済団体連合会（申請予定）
 協賛：特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアム、先進学習基盤協議会、

〔社〕日本教育工学振興会、〔財〕コンピュータ教育開発センター、
 〔社〕日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会、〔財〕科学技術教育協会、
 〔社〕全国産業人能力開発団体連合会、教育システム情報学会、日本ナレッジ・マネジメント学会、特定非営利活動法人日本e-Learning学会、IT人材育成事業者協議会（以上申請予定）

特別協力：フジテレビジョン／産経新聞社／ニッポン放送

併催企画：基調講演、特別講演、出展社ワークショップ、e-Schoolスクウェアセミナー

○講演

- (1) 7月28日〔水〕 10：30-11：30
 テーマ：「e-Learningの新しい展開：学習・コンテンツ・環境の多様性」
 講師：安西 祐一郎氏（慶應義塾 塾長）
- (2) 7月29日〔木〕 10：30-11：30
 テーマ：「ビジネス・パフォーマンスを加速させるe-Learning」
 ー米国及び海外の人材開発プロジェクトのトレンドと成功事例の考察ー
 講師：Mr. Kevin M. Oakes
 (ASTD-The American Society of Training & Development 全米人材開発協会・理事)
- (3) 7月30日〔金〕 10：00-11：00
 テーマ：「世界のe-Learningの動向とLearningGRID」
 講師：岡本敏雄氏（電気通信大学大学院情報システム学研究科教授、e-Learning WORLD実行委員長）
- (4) 7月30日〔金〕 11：00-12：00
 テーマ：「北米におけるe-Learningの現状：市場と技術、将来展望」
 講師：Dr. Vladimir Uskov
 (Professor, Computer Science and Information Systems Dept., Bradley University)

○CECの展示

- (1) 学校サーバー
<http://www.cec.or.jp/books/H15/gakosv.pdf>
- (2) Eスクエア・アドバンス
<http://www.cec.or.jp/e2a/>

○パネルディスカッション

e-Schoolスクウェア（初等・中等教育機関におけるIT活用のあり方”をテーマにした特別企画）
でパネルディスカッション「e-Learningを用いた学力向上と学校運営」

司会・コーディネーター：岡本敏雄氏

パネリスト：

- ・「地域ネットワークを活用した学習」
毛利靖氏（つくば市教育委員会 指導主事）
ITで子どもたちの学び方が変わる！
9月28日に「つくば市学校IT教育研究大会」があります
- ・「同期・非同期を織り交ぜたe-Learningの実践」
榎本竜二氏（東京都総合技術教育センター・技術教育課情報システム科専門教育主事）
平成15年度Eスクエア・アドバンスの採択プロジェクト（とうきょうED）の事例を紹介
e-Learningでは、「講師の印象づけ」「バックアップ体制」「補助のために掲示板」が必要。
「非同期型」も有効。外部講師の授業でも現場の先生の役割は大きい！
- ・「特区認可株式会社立バーチャルスクールからの“次世代ICT学習環境”の実践と提言」
柳沢富夫氏（アットマーク・インターハイスクール学長／[株]アットマーク・ラーニング 取締役）
1995年からe-Learningの関わる。慶応義塾普通部で7年間実践。米国の方が進んでいるという実感。
子どもたちの可能性を広げる「アットマーク・インターハイスクール」を立ち上げ。
e-Learningの拡張：schoolからHomeschoolへ。教育改革特区への挑戦！（石川県石川郡美川町等）
学習コーチの介在する卒業率の高いバーチャルハイスクールを目指す。
- ・学びの連続性を目指す校内ネットワークの発展的活用」
上水流信秀氏（財団法人岐阜県教育文化財団 生涯学習センター生涯学習課 課長補佐）
岐阜県糸貫中学校での実践を中心に発表。暮らしのIT化から学習のIT化へ！
「児童生徒の暮らしと学びによりそう、ネットワークソリューション」
グループウェア、携帯電話の活用。基本コンセプト＝暮らしの中で自然な形で！
リアルなコミュニケーションを補完するITコミュニケーション
授業そのものがコンテンツになる。生徒のノートも（了解を得て）コンテンツになる。
子どもたちにとって一番重要なコンテンツは「板書（今日の黒板）」である。

2. 官庁等の教育情報：「学校における情報教育の実態等に関する調査」Web公開

昭和62年度から実施されている「学校における情報教育の実態等に関する調査」の最新調査結果（平成16年3月31日現在）の資料が文部科学省より、本日Web公開されました。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/07/04072101.htm

を参照ください。

前号発行時には掲載されていませんでしたので、今号でお知らせします。

以上

=====
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一、南 仁
メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp
=====